

かぜ薬 使用上の注意

かぜ薬 使用上の注意

してはいけないうと

第②類医薬品

〈守らないと現在の症状が悪化したり、

副作用・事故が起きやすくなります)

1. 次の人は服用しないでください

(1) 本剤によるアレルギー・発熱反応を起こしたことがある人、

(2) 本剤とは他のかぜ薬、肺炎熱咳嗽薬を服用してぜんそく(支気管炎)を起こしたことがある人、2. 本剤を服用するの間は、次のいずれの薬品類も服用しないでください

他のかぜ薬、肺炎熱咳嗽薬、鎮痛薬、鎮痙攣性痙攣、抗ヒスタミン薬を含有する内服薬(風寒用内服薬、乗物酔い薬)、アレルギー薬、3. 服用後、尿が黄あわれになることがあるので乗物又は機械類の運転操作をしないでください

4. 服用時は飲酒しないでください

5. 長期連用しないでください

相談すること

1.次の人は服用前に医師又は薬剤師・登録販売者に相談してください(1)医師又は歯科医師の治療を受けている人(2)妊婦又は妊娠していると思われる人(3)授乳中の人(4)水痘瘡又はヘルペスににかかったり又はその疑いのある乳・幼小児(5)未成年、(6)高齢者、(7)本人又は家族がアレルギー体質の人(7)薬にアレルギー症状をきたしたことがある人(8)次の症状のある人。高熱、排尿困難、高血圧、胸痛、肝臓痛、腎臓痛、十二指腸潰瘍、緑内障(2)次の場合は、直ちに服用を中止し、この文書を持って医師又は薬剤師、歯科医師と相談してください

関係部位	症 状	関係部位	症 状
皮 膚	発疹・発赤、かゆみ	精神神経系	めまい
消化器	悪心・嘔吐、食欲不振	その他	排尿困難

まれに下記の重篤な症状が起こることがあります。その場合は直ちに医師の診察を受けてください。

症状の名称	病 状
ショック (アナフィキシー)	服薬後すぐに顔面紅潮、浮腫、胸膈不安等となり、顔色が蒼白となり、手足が冷たくなり、冷汗や嘔吐、意識障害があらわれる。
皮膚痒疹(皮膚の発赤・発疹) 全身性アレルギー反応 (アナフィラキシー)	高熱を伴って、発疹・発赤、火傷様の水ぶくれ等の急性炎症が、全身の皮膚、口や目の粘膜にもあられる。
肝臓機能障害	余剰の糖分を、黄疽（黄）と黄疸（黄）で蓄積する事があらわれる。 密着した心拍音が呼吸に伴い、意切に呼吸困難となる事がある。
間質性肺炎	肺組織の炎症は、多くの種痘症と区別が難しいところもあり、空室、発熱時の症状が悪化した場合でも、出現頻度が低くとも、医師の治療を受けること。

(2) 5～6回服用しても症状がよくなる場合
3. 口のかわきがあらわれることがあるので、このよ
うな症状の継続又は増強が見られた場合には、服用
を中止し、医師又は薬剤師に相談してください。

＜用法及び用量に関する注意＞

(1)用法及び用量を厳守してください。(2)小児に服用させる場合には、保護者の指導監督のもとに服用させてください。(3)3歳未満の乳幼児には、服用させないでください。

保管及び取扱い上の注意

(1) 直射日光の当たらない涼しい所に保管してください。
(2) 小児の手が届かぬところに保管してください。(3) 誤用をさへ、品質を保持するため、他の容器に入れ替えないでください。(4) 1包を分割した残りを服用する場合には、袋の口を折り返して保管し、2日以内に服用してください。
(5) 配製容器の過ぎた製品は、服用しないでください。

製造販売元 日本医薬品製造株式会社
奈良県御所市古瀬18番地 お問い合わせ先 TEL0745(67)0015